

平成 29 年度学校法人智香寺学園事業計画

I. 法人の部

学校法人智香寺学園は明治 36 年の東京浅草森下町（現在の台東区）で東京商工学校創設以来、平成 25 年度 110 周年を迎えました。この 110 周年を契機とし、平成 26 年度より様々な記念事業を計画し展開しております。また、新施設建設支援、奨学金支援、教育研究推進支援などを目的とした『創立 110 周年記念事業および教育研究充実・学生諸活動等助成資金』の募集を、平成 26 年 2 月より 5 年計画で行っており、平成 29 年度も引き続き、記念事業計画を踏襲し進めていく予定です。

主な記念事業の内容

1. 埼玉工業大学「ものづくり研究センター」完成

学園創立 110 周年記念事業の一環として平成 27 年度より建築を進めてまいりました新棟「ものづくり研究センター」が昨年平成 28 年 7 月に完成し、同月 19 日（火）には落慶式が執り行われました。本学関係者の他、設計を担当頂いた株式会社松田平田設計様、建築工事を担当頂いた竹並建設株式会社様の関係者の方々にもご列席頂き、厳粛な雰囲気の中、落慶の法要が行われました。今後は、この施設を中核的研究開発拠点と位置づけて、環境に優しい自然エネルギーの開発を強化していくとともに、次世代自動車の開発プロジェクトにも取り組んでいき、企業とは違った形で技術革新に貢献したい」と考えています。

2. 電気自動車プロジェクトの実施

平成 26 年次世代自動車向けの革新的なものづくり拠点として「電気自動車プロジェクト」を立ち上げた。平成 27 年度に応募した文部科学省の「私立学校教育研究装置等整備費」の内定を受け、平成 29 年度も更に研究活動に注力していく方針である。基本的には「設計・作成チーム」「自動運転研究チーム」それぞれが高い目標を持って取り組んでいく。

3. 学内共同研究プロジェクトの募集

平成 26 年スタートした学内研究プロジェクトを更に推し進め、埼玉工業大学発の創造性に富む革新的な研究を推進し、特に若手研究者への支援を引き続き行う。

4. のめりコンテストの実施

ひとつの物事にのめり込んで、その分野で将来大きな成果を出すであろう高校生の発掘を目的とした募集を、広報アドバイザーと連携して行う。

II. 大学の部

1. 周年事業

大学は、昭和 51 年に聖橋工業高等専門学校を前身として開学し、平成 28 年 1 月 10 日に創立 40 周年を迎え、同年 12 月 10 日（土）に記念式典・祝賀会を来賓、学校関係者約 400 名の出席のもと盛大に挙行了しました。40 周年という節目を迎え、「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」をモットーに、単なる実学教育にとどまらず、学生一人ひとりの「こころ」の涵養により一層、力を注いでいきます。また、グローバル化や少子高齢化が著しく進展し、将来の予測が困難になっている現代において、大学には、地域社会、国際社会、産業界等社会のあらゆる分野における急激な変化に向き合い、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り開き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが求められています。そこで本学では、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、将来計画中期ビジョン検討会を設置し、ビジョンの実現に向けた進捗状況を判断するために、次の目標を設定しました。

- (1) 入学定員の確保 100%+α
- (2) 離籍率(1年間) 3%以下
- (3) 就職率 95%以上

これらの目標を達成するための戦略として、

- I. 入学戦略
- II. 教育改革・学生支援戦略
- III. キャリア・就職支援戦略
- IV. 地域連携戦略
- V. 研究活動活性化戦略
- VI. 管理運営体制

の強化戦略の6項目を掲げ、その具体的な取組みを実施していきます。

2. 自己点検評価

平成25年度に受審した大学基準協会の認証評価について、平成28年度に「改善勧告」「努力課題」に対する改善報告を行ったところである。現段階において、期待される結果には道半ばの状況であり、引き続き改善項目に対する実のある点検作業を実施し、改善に努めてゆく。

3. 学部教育

- ・質の高い大学教育推進プログラムへの取組
- ・学生プロジェクトを始めとした学生支援のより強化
- ・退学者対策の強化

4. 学生募集計画

平成29年度生の学生募集は現在進行中であり結果は出ていないが、平成30年度生の学生募集を実施するにあたり、2018年問題に突入する厳しい環境の中で如何に特色をだし、受験生にアピール出来るかを考え、全学一丸となって学生確保に邁進したい。

(A) 大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
(博士前期課程)		(修士課程)	
システム工学専攻	6名	情報社会専攻	15名
電子工学専攻	7名	心理学専攻	10名
応用化学専攻	7名		
小計	20名	人間社会研究科合計	25名
(博士後期課程)			
システム工学専攻	2名		
電子工学専攻	2名		
応用化学専攻	2名		
小計	6名		
工学研究科合計	26名		

※大学院工学研究科の専攻名は、平成30年度生(専攻名変更申請)より、「機械工学専攻」「情報システム専攻」「生命環境化学専攻」に変更予定。

(B) 学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科 (機械工学専攻)	75名	情報社会学科 (経営システム専攻)	50名
(ロボティクス専攻)	40名	(メディア文化専攻)	40名
計	115名	計	90名
生命環境化学科 (バイオ・環境科学専攻)	65名	心理学科 (ビジネス心理専攻)	25名
(応用化学専攻)	45名	(臨床心理専攻)	25名
計	110名	計	50名
情報システム学科 (IT専攻)	85名	人間社会学部合計	140名
(電気電子情報専攻)	50名		
計	135名		
工学部合計	360名		

5. 情報公開

学校教育法施行規則に則り、来年度も教育情報・財務情報など情報公開の拡充と、日本私立学校振興・共済事業団で行っている「大学ポートレート」を活用し多くの最新情報の公開を引続き実施する。

6. 研究計画

①ものづくり研究センター

- ・ものづくり研究センター (33号館 平成28年7月完成)

ものづくり研究センターは、平成25年度に実施した学園創立110周年の記念事業の一つとして建設された建物です。ものづくりの発信の場となるような総ガラス張りで開放的な空間を目指した施設で、最新設備を導入した研究室をはじめ、Light (光)、Wind (風)、Earth (土)の3つの自然エネルギーを最大限活かしたECO研究センターでもあります。ECOの象徴として、建物を支える4本の柱をツリー状にすることで、木造の大空間を実現しました。

110年の歴史を未来に繋ぐべく、「新しい価値の創造」をテーマに、学生たちの好奇心を掻き立て想像力を導き出す新施設として、エンジニアや実務家など、社会の中核となって社会に貢献できる人材を養成してまいります。

施設の特徴としては、太陽光発電と新型電力貯蔵用電池のコラボレーションにより、自然エネルギーの利用を可視化し、先進技術を研究開発する施設となっています。また、文系、理系を問わず、全学的に学生が集う場所としてはもちろん、地域に開かれた交流の場としての役割も期待されます。工業大学としての特色を生かした公開講座の開設や、子どもたちにもものづくりの楽しさを伝える場として、地域に根ざした学びを創成する心と環境に優しい施設として運営してまいります。

- ・次世代自動車プロジェクト

学内プロジェクト「次世代自動車向けのものづくり研究」を27年度から実施し、グリーンエネルギー技術となる新規マグネシウム電池およびレドックス蓄電池の開発、これらの電池を利用する軽量の電気自動車の車体・シャーシ設計を行う設計チーム、高速通信とネットワークを利用した自動運転研究会の研究チームを設置しました。特に、自動車の安全・安心な操作環

境の開発、新規バイオマーカーおよび疲労度（ストレス）センサによる安全性の向上、より利便性のある省エネルギー操作システムおよび人間への適応性を反映する高感度・高親和性となる車内環境の開発などを目指しています。この研究プロジェクトの実施によって、イノベーション技術の創成に熱心かつ高度な科学技術を身につけた若手研究者やものづくり技術者を育成することが実現でき、埼玉県北部と群馬県太田地域にある多数の自動車関連企業にもたらす地域活性化が期待できると思われまます。

28年度には、電気自動車コムスをスマートフォンで自動運転できるように改造し、ZMP ロボカーは、学生駐車場で自動運転走行を6月のオープンキャンパスにおいてお披露目しました。

来年度は、2台のコムスを自動運転で並走、追走などできるように研究を進めております。ZMP ロボカーにおいては、学内での自動運転走行実験を繰り返し行い、来年度以降は、市街地を自動運転走行できるように研究を進めていきます。その他東京大学上條研究室と共同で東京都内での市街地走行実験も検討しております。

また、設計チームでは、3Dプリンターで作成したプロトタイプモデルを基に軽量電気自動車の製作を進めております。現在、シャーシの改造を中心に取り組んでおります。ボディーについては来年度以降、取り組む予定です。

②平成 29 年度科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※平成 28 年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	28 年度 直接経費	28 年度 間接経費
基盤研究（C）	新規	機械工学科	石原 敦	1,500,000 円	450,000 円
若手研究（B）	新規	機械工学科	長谷 亜蘭	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究（C）	新規	生命環境化学科	秦田 勇二	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究（C）	新規	生命環境化学科	木下 基	1,100,000 円	330,000 円
若手研究（B）	新規	生命環境化学科	松浦 宏昭	1,900,000 円	570,000 円
若手研究（B）	新規	生命環境化学科	本郷 照久	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究（C）	継続	機械工学科	趙 希 禄	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	渡部 大志	400,000 円	120,000 円
基盤研究（C）	継続	機械工学科	安藤 大樹	900,000 円	270,000 円
挑戦的萌芽研究	継続	先端科学研究所	内田 正哉	500,000 円	150,000 円
若手研究（B）	継続	機械工学科	皆川 佳祐	1,500,000 円	450,000 円
若手研究（B）	継続	生命環境化学科	秋田 祐介	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	内田 正哉	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	丹羽 修	3,000,000 円	900,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	山崎 隆治	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	新規	情報社会学科	田中 克明	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究（C）	継続	情報社会学科	佐藤 由美	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	継続	心理学科	友田 貴子	600,000 円	180,000 円
若手研究（B）	継続	機械工学科	小坂 丈敏	1,300,000 円	390,000 円
計			19 件	22,900,000 円	6,870,000 円

7. 産業技術展示会への研究展示計画

- ①イノベーションジャパン出展（8月）
- ②ARECものづくりパートナーフォーラム出展（9月）
- ③おおた研究・開発フェア出展（10月）
- ④諏訪圏工業メッセ出展（10月）
- ⑤埼玉県北部産業技術交流会出展（11月）
- ⑥埼玉県産業教育フェア出展（11月）
- ⑦埼玉県彩の国ビジネスアリーナ出展（2月）

8. 地域交流計画

平成28年度に実施した各種イベントについて、平成29年度も踏襲し実施する。

- ①「市民のための公開講座及び心理学セミナー」を開催
平成28年度（実績）：16講座（20日間開催）
- ②先端科学研究所協力会講演会及び企業見学会を開催
平成28年度（実績）：講演会3回（5月、12月、平成29年3月）
企業見学会 平成28年5月31日（火） ハイアールアジア R&D 株式会社（熊谷市）
参加者：31名（教職員、学生、一般企業、商工会議所など）
- ③科学と仏教思想研究センター公開セミナーを開催
（実績）平成28年10月29日（土）
テーマ：ヴィパッサナー瞑想入門 -レクチャーと実践-
- ④子ども大学ふかや」の開催(埼玉県教育委員会との協賛事業)
（子ども大学ふかや学長 内山俊一 学長 実行委員長：教育研究協力課 小林義雄）
平成28年度（実績）：深谷市内の小学生4年～6年生、50名参加
：本学会場他5日間開催
- ⑤彩の国大学コンソーシアムで公開講座の開催
（実績）平成28年9月7日（水）川越西文化会館
テーマ：瞑想の脳科学 心理学科 亀谷秀樹 教授
- ⑥正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。
（協定校：平成29年3月現在 合計33校）
[内訳] 高校31校・専門学校1校・日本語学校1校
・協定校との体験授業実施（12校）
・インターンシップ事業（協定校の生徒受入れ3校）
- ⑦高大連携協定による学校評議員の推薦
・埼玉県立熊谷工業高等学校 井門俊治 特任客員教授
・埼玉県立妻沼高等学校 生命環境化学科 熊澤 隆 教授
・埼玉県立深谷商業高等学校 井門俊治 特任客員教授
- ⑧深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。
・ふかや市民大学（生涯学習）へ委員及び講師の派遣
・深谷市社会教育委員会委員の派遣
・メンタルヘルス相談業務委託（臨床心理センター）の継続
・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）
・深谷市「砂ぼこり対策協議会」へ委員の派遣
・深谷市教育委員会と共催で「子ども向け科学講座」の開講

- ・日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催
 - ・彩の国いきがい大学熊谷へ講師の派遣
 - ・「深谷観光振興プロジェクト推進委員会」へ委員の派遣
 - ・深谷市と共催で「深谷ものづくり博覧会」を開催
- ⑨長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携を推進する。
- ・坂城町合同企業説明会
 - ・さかき町企業（製造業）見学会
 - ・「さかき夏休み子ども体験教室」
 - ・「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣
 - ・長野県坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
 - ・長野県坂城中学文化祭「ものづくり教室」開催
- ⑩日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」を実施
平成 28 年度（実績）平成 29 年 1 月 5 日（木）～1 月 12 日（木）8 日間
参加者：中国の各大学より若手研究者 10 名
内 容：本学の環境安全・エネルギー技術に関する先端的な研究施設見学など

9. 就職計画

（地域交流）

- ①坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業
 - ・坂城町企業見学会（9 月に 2 日間実施予定）
 - ・坂城町企業の企業研究セミナー参加（2 月開催予定）
 - ・大学と坂城町企業との意見交換会及び企業見学会（10 月開催予定）
- ②長野県との「ふるさと信州学生 U ターン就職促進に関する協定」における事業
 - ・長野県内企業との情報交換会（10 月開催予定）
 - ・長野県内企業の企業研究セミナー（2 月開催予定）
- ③群馬県中小企業家同友会との連携協定における事業
 - ・群馬県中小企業家同友会加盟企業による業界研究セミナー参加（2 月開催予定）
- ④栃木県との「U I ターン就職促進に関する協定書」における事業
 - ・栃木県産業労働観光部の企業研究セミナー参加（2 月開催予定）
- ⑤諏訪工業メッセ関連事業
 - ・諏訪工業メッセにおける地元企業との情報交換会（10 月予定）
 - ・諏訪工業メッセ見学会

（学生支援講座・ガイダンス）

- ①公務員対策講座（8 月～9 月、2 月開催予定）
- ②学年別就職ガイダンス（4 月～2 月複数回実施予定）
- ③インターンシップガイダンス・インターンシップマナー講座（5 月開催予定）
- ④埼玉県大学就職問題協議会主催：17 大学合同企業説明会（8 月開催予定）
- ⑤面接突破研修（12 月～ 複数回開催予定）
- ⑥個別面接研修（2 月・3 月予定）
- ⑦女子メイクアップ講座（1 月予定）
- ⑧スーツ着こなし講座（1 月予定）
- ⑨厚生労働省による『大学生のための労働条件セミナー』（12 月開催予定）
- ⑩筆記試験対策講座（S P I / C A B ・ G A B / クレペリン / w e b テスト 他）

(学内合同企業説明会等)

- ①4年生向け合同企業説明会(4月・9月開催予定)
- ②3年生向け業界研究セミナー(12月開催予定)
- ③3年生向け企業研究セミナー(2月開催予定)
- ④3年生向け職種研究セミナー(2月開催予定)
- ⑤3年生向け合同企業説明会(3月開催予定)
- ⑥ミニ合同説明会(4月～2月複数回実施予定)
- ⑦個別会社説明会(4月～2月複数回実施予定)

(保護者向け就職ガイダンス)

- ①4年生・3年生 保護者向け就職ガイダンス(5月1回開催予定)

(学生支援事業)

- ①ハローワークジョブサポーター相談(4月～3月)
- ②キャリアカウンセラーによる相談(4月～3月)
- ③工学部学生対象工場見学会(埼玉・群馬 各県2社見学予定)

(情報交換会及び加盟団体)

- ①県及び情報サービス産業協会主催の就職情報交換会参加
- ②埼玉県大学就職問題協議会
- ③関東地区大学理工系就職研究会

Ⅲ. 高校の部

1. 生徒募集状況

平成28年度は募集定員(360名)を大きく上回る456名の生徒を新入生として迎えることができた。この要因としては、①例年よりも単願希望者が多かったこと、そしてそれ以上に大きく影響したのが②公立高校併願者の戻り率の高さが挙げられる。例年5～7%前後で推移していた戻り率が、昨年は8.5%と極めて高く、その結果が456名の入学生につながった。

平成29年度入学予定者については、受験段階で昨年を上回る単願希望者となり、1月入試を終えたところで332名の生徒が入学手続きを終えている。合わせて1,347名の併願合格者が3月10日の公立高校合格発表を控えていることを考え合わせると、例年の戻り率で計算をしても募集定員を大幅に上回ることが期待され、状況によっては昨年の実績に迫る可能性も残している。2年続けての好結果については、様々な理由があるものと想定されるが、本校の教育活動が一定の評価を戴いているものと肯定的に捉えると共に、今後もなお一層の努力を重ね、より多くの方々に認知いただくよう更に精進していきたい。

2. 平成29年度学校運営方針

財政面の健全化は私立高校としての至上命題とされながら、これまで改善できていない以下の3項目について毎年指摘を受けてきた。

- | | | |
|--------------|------------|-------------------|
| ① 通学バスの費用の圧縮 | ② 奨学金額の適正化 | ③ 1クラス当たりの生徒数の適正化 |
|--------------|------------|-------------------|

①については、有料化を視野に検討してきたが、有料化に踏み切った近隣他校の状況を見る限り、受益者負担として有料化した結果、学校経営の改善に対して思ったほどの効果を挙げられなかったばかりでなく、有料化によるマイナスイメージが生徒募集にも少なからず影響してしまっている。この状況から本校では有料化ではなく、路線の見直しを第一案として平成30年度入学生より取り

組んでいきたい。具体的には、現在6コースあるバスルートのうち、利用者の少ない2コースを廃止する方向で検討を進めている。仮に廃止を決定した場合も完全に2コースの運行が無くなるまでに3年間かかることを考え、今年度より募集段階で告知していきたい。

②については、暫減の方向で今後も取り組んでいきたい。国または県からの補助金の増額ならびに年収制限の緩和に伴い、これまで同様の基準であっても減額が見込めるため、全体の奨学金額の圧縮は十分に可能なものと考えられる。

③については、平成28年度は入学生の増加により、結果的に1クラスあたり35名の生徒数となり、全年度より大幅に改善されたが、現在の6コース編成（Sプラス・Sセレクト・Sアスリート・アタックP・アタックA・スポーツ）が継続する限りはコース内での調整が不可避であり、その結果として1クラスの人数が少なくなってしまう結果となった。平成30年度より、コースならびに系統を大幅に再編することで、減コース化を図り、問題の解消につなげたい。

学校運営方針遂行のために現状を記すと共に、今後の課題を明確にし、その解消に向けた努力を続けていきたい。

◆15才人口（中学校卒業生徒数）推移見込み

高校入学年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
周辺地区	8,885	8,506	8,310	8,237	7,965	8,161	7,939	7,755	7,455
対前年度	+32	▲379	▲196	▲73	▲272	+196	▲222	▲184	▲300

※周辺地区： 深谷／熊谷／行田／本庄／鴻巣／北本／桶川／秩父郡市／児玉郡市／寄居町

埼玉全域	65,598	64,356	63,284	63,141	61,584	63,195	63,003	62,170	61,971
対前年度	+178	▲1,242	▲1,072	▲143	▲1,557	+1,661	▲192	▲833	▲199

◆県内高校の学力分布（声の教育社 H29データより）

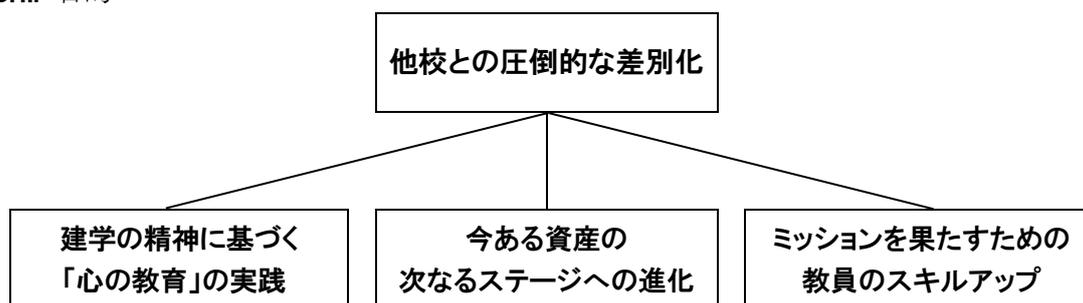
偏差値	正智深谷	本庄東	本庄第一	成徳深谷	近隣公立高校
67		特選			71 浦和／大宮（理数）70 浦和一女・大宮（普）
65	Sプラス		S特進		69 川越 68 市立浦和／川越女子
64					64 熊谷／不動岡（普）／浦和西
63					63 熊女／川口北／不動岡（外国語）
62		特進		特進S	62 熊谷西（理）
61					61 熊谷西（普）
60					60 松山（理）／大宮北／浦和南
59					59 伊奈学園（人文）
58	Sアスリート	進学			58 川越南
57			特進		57 上尾
56	Sセレクト				56 松山／大宮西
55					55 本庄／与野／市立川越
54				選抜	54 松女／大宮南
53					52 秩父・川口
52			進学α		51 深谷第一
51	アタックP				50 深商（情処）／桶川／浦和東
50					49 羽生第一／川口県陽／坂戸西

偏差値	正智深谷	本庄東	本庄第一	成徳深谷	近隣公立高校
49					48 鴻巣／深商（商）／鴻巣女子（保）／熊工（情）
48			進学B	進学	47 小川
47					46 滑川総合
46	アタックA				45 熊商（商）
45	スポーツ系				44 深谷／進修館／熊農（食品）

3. 正智深谷高等学校イノベーション計画／SHIP（Shochi Fukaya High school Innovation Plan）について

本校が私立高校として存在していくためには、財政面の健全化を図ることは至上命題であることは前述の通りである。また、2020年に控える大学入試改革や社会から求められる学力の変化に対して、早期に準備を整えていくことこそが安定的な生徒募集につながる。学校経営の安定を図るためには、財政面と教育内容の両面での改革が不可欠である。その実現のために昨年より5年間（平成28年度～32年度）にわたる中期計画（正智深谷高校イノベーション計画／SHIP）を策定した。計画2年目にあたる29年度は、すでに始めている取組みの継続と停滞している課題の解消に向けて、全教職員で協力して取り組んでいきたい。

◆SHIP 目的



①建学の精神に基づく「心の教育」の実践

- ・全教員による浄土宗／仏教精神に基づいた生徒へのアプローチの実践。
- ・「思いやりの気持ち」、「優しい心」、「献身的な姿勢」などを日常から意識した教育を実践。

②今ある資産の次なるステージへの進化

- ・他校に先駆けた21世紀型教育への挑戦（PBLをはじめとするアクティブラーニングの導入／ICT教育の実践）
- ・競技実績や知名度のみならず、安定的な募集実績を残すスポーツ系を発展的に解消し新系統へ移行。
- ・既存の修学旅行を深化させ、PBLやグローバル教育の視点に基づく研修旅行への取組み。
- ・大学合格実績にみる特進系の課題と目指すべき方向性の再検討。
- ・評価を得ている生活指導と目指す姿の実現に向けた取組みの継続。

③ミッションを果たすための教員のスキルアップ

- ・自己肯定感を育むためのコーチングスキルの醸成。
- ・PBLを含むアクティブラーニングに対応する教員研修の継続的実施。
- ・新しいアプローチによるキャリア教育の模索と実践。
- ・「教える職人」「学びの専門家」「あるべき大人の見本」の体現に向けた意識改革。

◆正智深谷高校 3つのミッション

- ①自己肯定感を育み、他者を認めることができる人を育てる → 仏教精神に根差した心の教育
- ②問題解決に協働して取組み、他者に貢献できる人を育てる → 21世紀型学力の追求
- ③夢を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる → キャリア教育の充実

①自己肯定感を育み、他者を認めることができる人を育てる

- ・毎朝 SHR で名前を呼んで出席を取る（目を見て、フルネームを呼んで、存在を承認する）。
- ・自己肯定感を失わせるような、感情的な指導は厳に慎む。「怒る」指導から「叱る」指導へ。
（体罰の禁止はもちろん、怒鳴り散らす・人格を否定する・威圧的な態度をとる）
- ・お互いの実践や取組みを否定的に捉えず、認めた上で、それぞれの成功実践を共有する。

②問題解決に協働して取組み、他者に貢献できる人を育てる

- ・教科で最低2回の PBL（Problem Based Learning）型授業を実施し、結果を教科会議で共有する。
- ・他者貢献として学習環境美化を意識させる。（日常清掃の徹底・整理整頓・進んでゴミを拾う等）
- ・学校行事等を通じて、協働意識の向上とそこから生まれる喜びを共有する。

③夢を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる

- ・教員自身の体験談を語り、「夢」を「目標」として捉える機会を作る。
- ・生徒が重ねる小さな努力を日常的に認め、褒める声掛けを意識する。
- ・保護者への連絡・情報発信・情報共有の場として、「学級通信」「学年通信」を活用する。
発行物については、管理職へ提出の上で情報共有を図り、保護者等の問い合わせに対応する。

◆SHIP 行動指針

- ①学校は「学び」「学び合う」場
- ②教師は「教える職人」「学びの専門家」「あるべき大人の見本」

「学び」「学び合う」場

- ・学校生活の基本は学習にあり、そのための「意識作り」「環境作り」「フィードバック」に努める。
- ・生徒同士の「学び合い」はもちろん、教員間でも謙虚に「学び合う」意識を常に持つ。

「教える職人」として

- ・日頃より教材研究に努め、自身の指導力の向上を図る。

「学びの専門家」として

- ・常にアンテナを広げ、生徒への様々なアプローチの手段として情報収集に努める。

「あるべき大人の見本」として

- ・「正智の教員としての誇り」を忘れず、清潔感を持った身だしなみを常に心掛ける。

(服装・整髪・髭を剃る／整える・酒／タバコの臭いに気をつける)

- ・年齢・立場・人間関係などを問わず、分け隔てなく、気持ちよく挨拶をする。

(学内・学外共)

- ・常に丁寧な言葉遣いを心掛ける。お互いが気持ちよく会話ができるよう意識する。

- ・教員間の呼び合いは「〇〇先生」で統一する。愛称やニックネームなどでは呼ばない。

- ・呼び出し放送には必ず「〇〇さん」「〇〇くん」を付ける。

- ・インターネットを利用した、授業に無関係な個人的行為は慎む。

(動画視聴・私的商品購入・私的 SNS 等)

- ・職場であることを意識し、授業に無関係な個人的な行為は慎む。

(音楽視聴・資料コピー・写真印刷・タバコなど)

- ・職員会議は重要な情報共有の場であり、必ず出席する。

(やむを得ない場合は、教頭へ相談する)

- ・教育者として、我々教員の「言動」「行動」全てが、常に見られていることを忘れない。

(生徒・保護者・地域)